

## 第23回 ちゅうでん教育振興助成（2023年度）

### 小・中学校の部 報告書資料

学校名・団体名	名古屋市立千石小学校
コース	学校支援コース
活動・研究のテーマ	自分で考え、行動する子の育成

#### 〈活動・研究の意義および活動報告〉

##### 1. 実施計画に至るまでの経緯

令和5年度4月3日の新年度スタートの日に、学校の全職員で「子どもをどうしたいか、どうなってほしいか」という視点でグランドデザインの最上位目標を話し合う学習会を行った。

まず、VUCAの時代、令和の日本型教育など、子どもたちを取り巻く社会を確認した後、全教職員が、自分の教職員経験を振り返り、「なぜ教職員となったのか」「自分はどうのようなことに取り組みたいのか」というテーマで意見を出し合った。

学習会后、校長が意見を集約して、「自分で考え、行動する子」を今年度の最上位目標として掲げた。そして最上位目標と共に、一新したグランドデザインを基に、4月下旬に学年・学級目標を決めた。学校教育説明会や学区連絡協議会を開催し、保護者・地域にも、1年間目指す姿勢を示した。（グランドデザインはHPに記載）



【最上位目標を検討】

##### 2. 活動内容

(1) 対象者 全学年

(2) 活動時期および内容

「自分で考え、行動する子の育成」を目指す上で、主に以下の4点の活動を行う。

##### ①年間を通して行う縦わりPA（プロジェクトアドベンチャー）活動

今年度は、縦わり班ごとに年間のゴールを決め、PA活動を中心に子ども達が主体的に学び、遊び、協同して班のゴールに向かうように活動を展開してきた。全学年の児童を16班に分け、毎週金曜日の業前の時間に年間21回活動する。2回1セットで計画→遊びで活動を行う中で、子どもたちが主体的に学び、遊び、協同してグループのゴールに向かうことができた。

縦わり活動も年間30回ほどに増やし、計画も自分たちで行うようにした。子ども達は、回を重ねるごとに、積極的に関わり、相手の考えを互いに認めながら、より良い活動にしようとする姿が見られるようになった。

また、異学年交流を通して、協力することの大切さやお互いに思いやる心を育てることができた。6年生にとっては最高学年としての自覚を育て、毎回の活動を通して自己有用感を高め、下級生は、上級生の思いやりのある行動や優しい声掛けを通して、他者との接し方を振り返る場となることができた。



【縦わりPA】

## ②年間を通して行う「全校道徳」

年6回取り組む全校道徳は、縦わりの班による異学年集団で構成する。前述の16班をさらに半分に分け、1年生から6年生で32の班になり、体育館でホワイトボード等を囲んで、グループで話し合いなどを行った。

テーマは、学校の実態を捉えた教材を活用し、発達段階をより一層踏まえた人権問題を取り上げた。全校道徳を通して、児童は、他者の考えをうなずきながら聞き、「その考えいいね」と認め合う姿が見られるようになった。また、自分の考えを進んで伝

えられる児童や、同じ班の児童に「〇〇さんはどう？」と自分から声を掛けることができる児童も増えてきた。

これらの姿から、児童は、他者の考えをしっかりと聞き、認められるようになってきたと考える。また、道徳的な課題を、自分自身の問題と捉え、議論することで、「自分で考え、行動する子」の基盤となる道徳性を養うことができたと考える。

## ③1学期：学年・学級レク活動

学級会などを通じて、自分の得意を生かし、仲良く協力をして進め、新しい学年の仲間と協力して行うことができるような活動を企画した。

学年・学級レク活動では、自分の活動で学年や学級の役に立つことを知り、友達のすばらしいところを見つけることができる。

また、レクウィークでは、それぞれの学年・学級が、子ども主体で学年・学級の絆が深まるような活動を考え、自分の長所を生かしながら、主体的に活動する姿が見られた。活動後には、どの学年・学級も子ども達の笑顔で溢れていた。そして、子どもたち一人一人が「この学級の一員になってよかった。がんばれそうだ」という思いをもって学校生活を送ることができるようになったと考える。

## ④2・3学期：生活科・総合的な学習の時間における探究活動

総合的な学習の時間における探究活動とは、自分で課題や問いを見つけ、解決するための情報を収集・整理することである。自分で問いや課題を見つけ、その課題解決に向けて情報を収集・整理しながら、他者と議論・協力し、ときには振り返りながら、自分独自の最適な答えを見つけていく学びである。

各学年が、発達段階に応じた探究活動を行うことができ、自己学習力が育ち、問題解決能力やクリティカル・シンキングが向上した。また、自分の興味に基づいたテーマ（3年：地域 4年：命 5年：福祉 6年：国際理解）に取り組むことで、学ぶ喜びが広がり、協働やコミュニケーションスキルも伸びた。また、探究活動を通して創造性が刺激され、未知の領域に対する好奇心が育まれた。これらの経験は将来の学習や職業において持続的な好奇心と柔軟な思考を促進し、豊かな学びの基盤を築くことができたと考える。

## 3. 成果と課題

「自分で考え、行動できる子」を目標に一年間取り組み、好奇心旺盛で自発的に学び、困難な状況にも立ち向かう姿が見られた。多くの児童は、独自の視点で物事を見つめ、自ら問いかけ、主体的に解決策を見つけようとしていた。協働して行う活動においてはコミュニケーション力が生まれ、他者の意見を尊重しながらも自分のアイデアを積極的に表現する姿が見られた。さらに失敗から学び、自己効力感に裏打ちされた自信をもち、目標を設定して自己管理能力を発揮することができた。この姿勢は将来の学びや社会での成功に繋がり、持続的な成長を遂げる基盤となると確信している。



【全校道徳】



【レク活動】



【探究活動】